

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月14日 (2010.1.14)

【公表番号】特表2009-517374(P2009-517374A)

【公表日】平成21年4月30日 (2009.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2009-017

【出願番号】特願2008-541825(P2008-541825)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/107 (2006.01)

A 6 1 K 9/70 (2006.01)

A 6 1 K 9/02 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 K 31/5575 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 47/20

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/107

A 6 1 K 9/70

A 6 1 K 9/02

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 31/5575

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 9/12

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月12日 (2009.11.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

皮膚幹細胞が投与されていない患者の創傷治癒を促進するための薬剤の調製における、
 (i) プロスタグランジン E (P G E) またはそのアゴニストおよび / または P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤、および (i i) 顆粒球マクロファージコロニー刺激因子 (G M C S F) またはその誘導体の使用。

【請求項 2】

皮膚幹細胞が投与されていない患者であって、 P G E またはそのアゴニストおよび / ま

たは P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤が投与されている患者の創傷治癒を促進するための薬剤の調製における、G M C S F またはその誘導体の使用。

【請求項 3】

皮膚幹細胞が投与されていない患者であって、G M C S F またはその誘導体が投与されている患者の創傷治癒を促進するための薬剤の調製における、P G E またはそのアゴニストおよび / または P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤の使用。

【請求項 4】

P G E またはそのアゴニストまたは P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤が、P G E₁、P G E₂、19 - ヒドロキシ P G E₁、19 - ヒドロキシ P G E₂、16, 16 - ジメチル P G E、ジノプロストン、ミソプロストール、アルプロスタジル、リマプロスト、上皮成長因子 (E G F)、またはペルオキシソーム増殖因子活性化レセプター (P P A R) アゴニストの何れか一である、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 5】

G M C S F またはその誘導体が、配列番号 1 のアミノ酸配列を有するヒト G M C S F またはその天然由来変異体、またはサルグラモスチムまたはモルグラモスチムである、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 6】

薬剤が抗菌剤をさらに含んでなるか、または患者が抗菌剤を投与されている患者である、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 7】

抗菌剤が、抗バクテリア剤、抗真菌剤、または抗ウイルス剤である、請求項 6 に記載の使用。

【請求項 8】

抗バクテリア剤が、ゲンタマイシン、アンピシリン、ベンジペニシリン、ベネタミンペニシリン、ベンザチンペニシリン、フェネチシリン、フェノキシ - メチルペニシリン、プロカインペニシリン、クロキサシリン、フルクロキサシリン、メチシリンナトリウム、アモキシシリン、塩酸パカンピシリン、シクラシリン、メズロシリン、ピバンピシリン、塩酸タランピシリン、カルフェシリンナトリウム、ピペラシリン、チカルシリン、メシリナム、ピルメシリナン、セファクロール、セファドロキシル、セフォタキシム、セフォキシチン、セフスロジンナトリウム、セフトジジム、セフトゾキシム、セフロキシム、セファレキシム、セファロチン、セファマンドール、セファゾリン、セフラジン、セフピロム、ラタモキシフ 2 ナトリウム、アズトレオナム、グリシルサイクリン類、塩酸クロルテトラサイクリン、クロモサイクリンナトリウム、塩酸デメクロシジン、ドキシサイクリン、リメサイクリン、ミノサイクリン、オキシテトラサイクリン、アミカシン、硫酸フラマイセチン、硫酸ネオマイシン、ネチルミシン、トブラマイシン、コリスチン、フシジン酸ナトリウム、フピロシン、硫酸ポリミキシン B、スペクチノマイシン、バンコマイシン、テイコプラニン、スルファルオキサートカルシウム (calcium sulphaloxate)、スルファメトピラジン、スルファジアジン、スルファジミジン、スルファグアニジン、スルファウレア、カブレオマイシン、メトロニダゾール、チニダゾール、シノキサシン、シプロフロキサシン、ノルフロキサシン、ニトロフラントイン、ヘキサミン、ストレプトマイシン、カルベニシリン、コリスチメタート、ポリミキシン B、フラゾリドン、ナリジクス酸、トリメトプリム - スルファメトキサゾール、クリンダマイシン、リンコマイシン、シクロセリン、イソニアジド、エタンブトール、エチオナミド、ピラジンアミド、メロペネム、およびイミペネムから選択される、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】

抗真菌剤が、ミコナゾール、ケトコナゾール、イトラコナゾール、フルコナゾール、アンホテリシン、フルシトシン、グリセオフルビン、ナタマイシン、およびニスタチンから選択される、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 10】

抗ウイルス剤が、アシクロビア、A Z T、d d I、塩酸アマンタジン、イノシンブラノ

ベクス、およびピダラピンから選択される、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 1 1】

薬剤が、患者の創傷部位への局所投与用に調剤されている、請求項 1 から 1 0 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 1 2】

薬剤が鎮痛剤または麻酔剤をさらに含んでなるか、または患者が鎮痛剤または麻酔剤を投与されている患者である、請求項 1 から 1 1 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 1 3】

鎮痛剤がサルチル酸メチル、サリチル酸、ジクロニンおよびアロエベラから選択される、請求項 1 2 に記載の使用。

【請求項 1 4】

麻酔剤がベンゾカイン、リドカイン、キシロカインおよびブタンベンピクラート (butamben picrate) から選択される、請求項 1 2 に記載の使用。

【請求項 1 5】

内部外科創傷を治癒するための薬剤の調製における、請求項 1 から 1 4 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 1 6】

外傷を治癒するための薬剤の調製における、請求項 1 から 1 4 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 1 7】

薬剤が皮膚透過性エンハンサーをさらに含んでなるか、または患者が皮膚透過性エンハンサーを投与されている患者である、請求項 1 6 に記載の使用。

【請求項 1 8】

皮膚透過性エンハンサーが D M S O である、請求項 1 7 に記載の使用。

【請求項 1 9】

薬剤がゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレーとして調剤されているか、またはフィブリン接着剤といった組織シーラントとして調剤されているか、または創傷包帯または包帯として調剤されているか、または注射によって投与されるように調剤されている請求項 1 から 1 8 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 2 0】

クローン病に関連する胃腸障害または潰瘍と闘うための薬剤の調製における、請求項 1 から 1 0 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 2 1】

薬剤が経口投与用に調剤されているか、または座薬またはカプセルとして調剤されている、請求項 2 0 に記載の使用。

【請求項 2 2】

座薬またはカプセルが腸内で溶けて放出するようコーティングされている、請求項 2 1 に記載の使用。

【請求項 2 3】

(i) P G E またはそのアゴニストおよび / または P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤、および (i i) G M C S F またはその誘導体を含んでなる、皮膚幹細胞が投与されていない患者の創傷治癒を促進するために使用するための組成物。

【請求項 2 4】

G M C S F またはその誘導体を含んでなる、P G E またはそのアゴニストおよび / または P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤を投与された患者であって皮膚幹細胞が投与されていない患者の創傷治癒を促進するために使用するための組成物。

【請求項 2 5】

P G E またはそのアゴニストおよび / または P G E の効果または局所濃度を増大する作用剤を含んでなる、G M C S F またはその誘導体を投与された患者であって皮膚幹細胞が投与されていない患者の創傷治癒を促進するために使用するための組成物。

【請求項 26】

(i) PGE またはそのアゴニストおよび / または PGE の効果または局所濃度を増大する作用剤、および (ii) GMCSF またはその誘導体を含んでなり、かつ皮膚幹細胞を含まない創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物。

【請求項 27】

(i) PGE またはそのアゴニストおよび / または PGE の効果または局所濃度を増大する作用剤、(ii) GMCSF またはその誘導体、および (iii) 抗菌剤、鎮痛剤または麻酔剤の少なくとも一つを含んでなり、かつ皮膚幹細胞を含まない、ゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 28】

PGE またはそのアゴニストおよび / または PGE の効果または局所濃度を増大する作用剤が請求項 4 に記載のものである、請求項 23 から 25 のいずれかに記載の組成物、または請求項 26 に記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 に記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 29】

GMCSF またはその誘導体が請求項 5 に記載のものである、請求項 23 から 25 または 28 のいずれかに記載の組成物、または請求項 26 または 28 に記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 または 28 に記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 30】

抗菌剤をさらに含んでなる、請求項 23 から 25、28 または 29 のいずれかに記載の組成物、または請求項 26、28 または 29 のいずれかに記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物。

【請求項 31】

抗菌剤が請求項 7 から 10 のいずれかに記載のものである、請求項 30 に記載の組成物、または請求項 30 に記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 に記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 32】

鎮痛剤または麻酔剤をさらに含んでなる、請求項 23 から 25 または 28 から 31 のいずれかに記載の組成物、または請求項 26 または 28 から 31 のいずれかに記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物。

【請求項 33】

鎮痛剤または麻酔剤が請求項 13 または 14 に記載のものである、請求項 32 に記載の組成物、または請求項 32 に記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 に記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 34】

内部外科創傷への適用に適した、請求項 26 または 28 から 33 のいずれかに記載の創傷包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 から 29、31 または 33 のいずれかに記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 35】

皮膚透過性エンハンサーをさらに含んでなる、請求項 26 または 28 から 33 のいずれかに記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 から 29、31 または 33 のいずれかに記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

。

【請求項 36】

皮膚透過性エンハンサーが請求項 18 に記載のものである、請求項 35 に記載の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 35 に記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 37】

外傷への適用に適した、請求項 26、28 から 33、35 または 36 のいずれかに記載

の創傷包帯、包帯または組織シーラント組成物、または請求項 27 から 29、31、33、35 または 36 のいずれかに記載のゲル、クリーム、ローション、ペーストまたはスプレー。

【請求項 38】

組織シーラントがフィブリン接着剤を含んでなる、請求項 26、28 から 33、35 から 37 のいずれかに記載の組織シーラント組成物。